

あなたは 大丈夫?

成人病検査 を受けよう

脳卒中、ガン、糖尿病などの成人病患者は、家庭にも、社会的にも大切な働き盛りの人ばかりです。市では、これらのうち、日本人に特に多いといわれている「胃がん」「子宮がん」の検査を、費用の一部を補助して行っています。早く発見し、早く治すために、すんで受診されるよう、お知らせします。

●対象者
胃検査：四十歳以上の日本人
婦人検査：三十五歳以上の女性
●とき
胃検査：四月上旬～下旬
婦人検査：六月中旬～下旬
●申込み：三月十九日まで
に区長、婦人会長または保健課へ。
●費用
胃検査：一、一〇〇円
婦人検査：九〇〇円
なお、くわしいことは、申込みをした人に、保健課から後日お知らせします。また、申込みについて不明な点も申込み先へおたずねください。



そろそろ農作業の始まる時期ですが、今号と次号の二回にわたり、水稻の主な品種の特性と、栽培上の注意をお知らせします。

アキヒカリ

●米歴：昭和四十二年、青森農試で交配、育成
●交配：父トヨニシキ、母レイメイ
●特性：本田の草型はレイメイに似ているが、葉色は淡い。稈長はレイメイよりやや長く、穂数はやや多い。早生の短桿

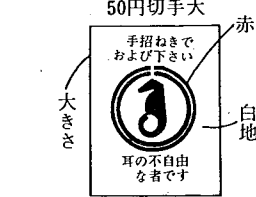
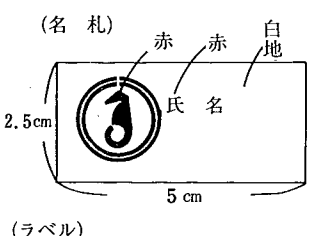
偏重型である。出穂期、成熟期はレイメイ並みかやや早く、稈は太く剛性強い。耐病性は良好である。玄米はレイメイよりやや小さく、まれに腹白を生じる。耐病性、葉いも穂はレイメイ並みであるが、穂はもちにはやや弱い。

シュウレイ

●米歴：昭和三十五年、愛知県農試で交配、昭和四十二年、系統育成した品種
●交配：父（銀河×藤坂五号）のF₂、母（万代錦×秋晴）
●特性：本田の草型はレイメイよりやや長く、越路早生より短い。稈長は越路早生より長く、穂数は少ない。早い偏重型である。出穂期、成熟期は越路早生と同じかやや早く、短桿で稈は太く、耐倒伏性はトドロキワセより強い。

玄米の粒大はホウネンワセより大きく、品質はレイメイにまさるが、トドロキワセより劣る。
●栽培上の注意：強桿で耐肥性はすぐれているので、やや密植、多肥の場合にはその特性を発揮する。地方に劣る地帯、後期生育の遅滞する栽培法では下葉の枯上がりや早め、熟色を悪くするので、追肥の量、時期を失しないこと。多収するには、初期生育の促進をはかる。紋枯病に弱く、穂発芽性を充分注意した栽培をする。
なお次号には、「はなひかり」「北陸一〇〇号」についてお知らせします。

人の不自由な耳 になってあげて...



日ごろ耳の不自由な人は、その障害のため、公共機関あるいは病院、金融機関の窓口での呼出しなどに、とても不便を強いられています。このため、県身体障害者団体では、「耳のシンボルマーク」をつくって、これらの人たちの不便の解消をはかる運動を進めています。

耳の不自由な人たちは、胸にシンボルマークと名前を記入した「名札」をつけ、申請書や診察券、預金通帳などには「ラベル」を貼付しています。もし健康者の方で、これらのシンボルマークを確認した時は、耳の不自由な人たちが窓口での用事を安心して足せるよう、ぜひ手をかしてあげてください。
なお、このシンボルマークは、実費五十円で販売しています。市身体障害者福祉協会の村木さん（☎二一五〇六七）まで連絡しましょう。

国保の保険証

“竹色”から “桃色”に



日清戦争が終り、日清講和条約の締結されたのは、明治二十八年三月のことであった。

この頃の女の内職賃について、樋口一葉は、その小説「にこりえ」(二八・九)の中に、
「私が内職として朝から夜にかけて十五銭が関の山」と記しているが、これは針仕事の内職賃のことである。また、この頃、内職に限らず、若い女の給料も、大体、この程度であったことは、国木田独歩の「二小女」(三二)の中に、東京電話交換局の交換手のお秀の給料について、未だ局に勤めるようになってから二年ばかりなので、(やっつと十五銭)であったと記されている。

国民健康保険の「被保険者証」が、四月一日から新しい「桃色」のものに変わります。国保の新しい保険証は、今月の末までに区長さんを通じてみなさんのお宅にお届けします。四月からは、この

かりなので、(やっつと十五銭)であったと記されている。

女の内職賃十五銭というのは三十七年頃で殆んど変わらなかったと見え、この年に刊行された片山潜「社会主義」の中にも、
「主人は工場の石炭焚きで、日給三十五銭、主婦は巻タバコの製造を内職として、一日十五銭、何の故障もなければ二人で一日五十銭の収入。」
一日と十五日を休んで手取り一ヶ月十四円。」とある。

女子の内職賃 阿達義雄

日本銀行卸売物価連統調査指数によると、日清戦後の二十八年の指数一四三三に対して、三十九年の指数は二二二であって、その物価は一・六倍以上になっている。それにも拘わらず、女子の内職賃が物価上昇に依じて高くなかったことは、

「桃色の保険証」をお使いください。したがって四月からは、いままでの竹色の保険証は使えませんが、新しい「保険証」が届いたら、古い「保険証」を、区長さんあるいは市民課の窓口までお返しください。

次の明治三十九年の新聞記事によって知られる。
(二月三日、東京朝日)
「女子の内職賃」
「經木真田は一反約六丈、此工賃一五銭なりと、普通女子にて二日半は掛る。故に一日平均十時間稼きとして六銭の割なり、手袋の飾一日一ダース六銭より六銭五厘、靴下のカガリは一日一ダース半八

銭内外、マツチ箱は一日五百個仕上六銭五厘、此襦袢は白弁なり、石版絵の着色は精々七銭止まり、絵葉書下彩色一日五百枚仕上十七銭乃至二十銭、其他製本紙折、造花、封筒張、足袋、股引、シャツ等の下縫、ボール箱、提灯箱、糸織、小楊子等数々あれど、概して女子の工賃といへば六、七銭乃至十五銭にて、二十銭

は収入多き方なり。」
右に見られるように、内職は製品の出来高払いであるから、一般に極めて低賃銀であって、「概して女子の工賃といへば六、七銭乃至十五銭にて、二十銭は収入多き方なり」の文句によって考えてみると、十五銭の内職賃は中程度として踏むことができるであろう。
なお、明治三十九年七月

には、「電車会社にも女子登壇」として、次のような記事が見えるが、これは電車の女車掌ではないかと思われる。
(七月二十三日、日本新聞)
電車の子社員
「今日待遇は三電車会社女子待遇は、日給二十銭以上五十銭迄、八時間勤務とし、資格は小学卒業以上の学力を有する独身者に限られたり。」
これは内職賃よりも少し高くなっていた。

以上によって、日清戦争後から明治三十年代の女子の内職賃は一日十五銭前後であり、電車の女子雇員の日給は、それよりもやや高く、日給二十銭から五十銭くらいであったことが知られる。

なお、明治三十七年、二十八年頃といえ、未だハガキ代が一銭、ソバ代が一銭二厘という時代で、三十年の秋にソバ代が一銭に引上げられたら、間もなく湯銭も同じように二銭にされ、ソバ代は日露戦争の年の三十七年に、未だ二銭の所もあって、その店に就いて多少の違いがあったようである。
官製ハガキ代も三十二年には一銭から一銭五厘になった。これはこの年の金融恐慌の影響であろう。
すなわち、女子の内職賃の十五銭は、官製ハガキなら十枚分となったのであった。
(新潟大学名誉教授)

お買物、ご用命は市内で

お買物、ご用命は市内で

総合結婚式場
春祥殿
歓送迎会・クラス会・各種御会合に御利用下さい。
お茶会には松花堂弁当をどうぞ。
新津市本町一丁目 ☎(2)代1600
新味割烹・食堂
春而

住宅 どんな御相談でもお気軽に
羽田建築 TEL(2)6163
新津市金沢町2丁目 設計、施工、監理

生徒募集中 (入学随時)
・3月入学、または入学手続きをされた方に調理器具(市価1,200円相当)をプレゼント!
新津料理学校
速く役立つ料理、わかりやすい、おぼえやすい
滝谷町5の2(駐車場有り) TEL(2)5000

ご融資
TEL 02502-4-2127
※大口商手 信用貸 不動産担保
お気軽にご相談下さい
新津市秋葉1丁目(秋葉マンション裏)
(有)新津相互ローン